

尾張旭市と金城学院大学との包括的連携協力に関する協定趣意書

尾張旭市と金城学院大学は、幅広い分野において連携協力し地域社会の発展に寄与するため、包括的連携協力に関する協定を締結した。

平成27年度に市制45周年を迎えた尾張旭市は、平成26年に長期的なまちづくりの指針である第五次総合計画を策定し、将来の都市像「みんなで支え合う 緑と元気あふれる住みよいまち 尾張旭」の実現に向け、市民とともに取り組んでいる。

また、本市は、平成16年にWHO健康都市連合に加盟し、「寝たきりにさせないまちづくり」、「外に出かけたくなるまちづくり」、「住み続けたいくなるまちづくり」の3つの施策の方針に基づき、さまざまな事業を展開し、総合計画との一体的な推進を図りながら健康都市の実現を目指している。

金城学院大学は、1889年アメリカ人宣教師アニー・ランドルフが私邸の中に設立した「私立金城女学校」をルーツとし、1949年、プロテスタント・キリスト教の精神に基づく女性のための高等教育機関として設立された。今日では文学部、生活環境学部、国際情報学部、人間科学部、薬学部の5学部12学科、大学院として、文学研究科及び人間生活学研究科の2研究科6専攻を有する東海地区随一の女子総合大学となった。

金城学院大学は、「強く、優しく。」を教育スローガンに、主体性を持ってものごとを成し遂げ、学んだ広い知識を人生の場で活かせる「強さ」と、まわりの人々の気持ちを理解し、いたわり思いやる「優しさ」を兼ね備え、明日の社会に貢献できる女性を養成している。

昨今、人口減少時代の到来と少子高齢化が進むなかで、市や大学を取り巻く社会環境は、日々変化している。

市においては、市民協働、成果重視の行財政運営や健康都市の取組を推進するにあたり、大学の持つ知的・人的資源を生かしたまちづくりを進めることが一層求められている。

一方、大学においては、地域の子育てに不安を持ちながら孤独の中で育児を続けている多くの親たち（特に母親）への支援を目的として、2015年にKIDSセンターを設置し、本学がもつ子育て支援の専門性を活かした地域貢献活動を推し進めている。

市と大学は、まちづくりや地域の活性化、大学が持つ専門分野などにおける知的・人的資源や施設などの活用といった事項において、市民生活及び文化の向上や地域社会の今日的諸課題の解決に寄与するため、包括的連携協力に関する協定を締結し、互いに計画的・継続的な連携を図る。

平成28年6月3日

尾張旭市
金城学院大学